

私たちの町に観光客を！

— ふるさとCMで地域をPRしよう！ —

広島県竹原市立吉名小学校 教諭 有松浩司

キーワード：総合的な学習の時間、動画編集

1. はじめに

従来、学校教育において映像制作は、設備的・時間的な制約から困難とされてきた。しかし、近年急速に進む学校現場へのICT機器の導入により、この映像制作が、現実的に可能な活動へと変わりつつある。実際タブレット端末を使えば、これまで一台のテレビに向かって全員で見ていた映像も、個別に自分のタイミングで視聴することができるし、インターネット上の動画も有効に活用することができる。またタブレット端末はカメラとしての機能も備えており、自分で自由に映像を録画したり保存したりすることができる。さらに児童向けの動画編集ソフトも開発されており、これらを有効に活用することで、短時間で手軽に映像制作を行わせることができる。

本実践は、総合的な学習の時間において、児童が自らICT機器を用いて情報を収集し、集めた情報をもとに動画編集を行い、地域の良さをPRするCMの制作を行ったものである。日本全国、どこの地域にも、その土地ならではの観光地、特産物、伝統文化や伝統芸能等が存在する。また、地域には必ずそれらを守り、後世に残し、伝えていこうと努力されている方が少なからずいる。しかし、その地域に住んでいても、自分たちの地域にどんな良さがあるのか、それらを継承するためにどんな人たちが努力をしているのかをほとんど知らずに日々を過ごしている児童も少なくない。

そこで、CMづくりを通して、児童が自ら主体的に地域の歴史や伝統、自然、人々にかかわり、その中で改めてその良さに気付く、今後も大切に伝えていこうとする態度を育てることが本実践の主なねらいである。実践の概要を以下に示す。

2. 単元計画

2.1 単元名 ふるさとCMで地域をPRしよう！

2.2 対象 所属校第6学年1組(19名)

2.3 単元の目標

日本や地域の歴史や文化、またそれらを大切に守る人と関わり、様々な方法で調べたり情報を主体的に発信したりすることを通して、地域の良さや地域の一員としてそれらを守り、伝えていく大切さについて考えることができる。

2.4 指導計画 ※()は時数

(1) 修学旅行で学びを深めよう！

- ①修学旅行の目的を話し合い、事前学習会に向けて計画を立てる。(1)
- ②見学地(京都)について、図書資料やインターネットを活用して調べる。(4)
- ③事前学習会に向けて発表資料(プレゼンテーション)を作成する。(4)
- ④修学旅行事前学習会を行う。(2)
- ⑤修学旅行で調査した見学地を訪問する。(学校行事)
- ⑥事前学習会で作成した発表資料を一部修正し、修学旅行の学びを全校に発信する。(2)

(2) 京都と吉名を比べてみよう！

- ①ベン図を使って京都と吉名を比較し、映像を使った情報発信への意欲をもつ。(1)
- ②京都の観光CMを視聴し、その特長を知る。(1)
- ③吉名にはどんな良さがあるかを考え、CMづくりへの大まかな計画を立てる。(1)

(3) CMづくりに向けて地域を取材しよう！

- ①地域の神社等を訪れたり、地域の保存会の方に学校に来ていただいたりして、聞き取り調査を行う。(4)
- ②地域を歩き、必要な映像を集める。(3)

(4) 動画編集をしよう！

- ①集めた映像を使って、CMを制作する。(4)
- ②試写会を行い、互いに助言を行う。(1)
- ③再度修正を行い、CMを完成させる。(2)

(5) CM完成披露会をしよう！

- ①完成したCMを見合う。(1)
- ②異学年や保護者、地域の方にCMを披露する。(3)

3. 授業の実際

3.1 修学旅行で学びを深めよう！

5月の修学旅行に向けて、4月から自分たちで見学地について調べたり、資料を作成して発表したりする活動を行った。また、修学旅行を終えた後も、今度は異学年に向けて、集会等で自分たちが見てきた日本の文化遺産について発表する活動を行った。児童は図書資料やインターネットを使って調べたり、プレゼンテーション作成ソフトを使って発表資料を作成したりと、終始主体的に活動を進めることができた。



写真1 修学旅行に向けて事前学習を行う様子

3.2 京都と吉名を比べてみよう！

修学旅行で訪れた京都と吉名を比べる活動を行った。まずは次頁のようなベン図を使って、京都と吉名の共通点、相違点を話し合った。その際、京都と吉名の観光客数や修学旅行生数の違いも情報として提供した。すると、「自分たちの地域にも京都と同じように素晴らしい文化財があるのに、なぜこれほど観光客や修学旅行生の数に差があるのか」という問いが生まれた。そして児童との話し合いの中で、その主な理由は、「情報発信の差ではないか」という意見にまとまった。実際に京都は、観光ポスターやチラシ、CM等、様々な方法で情報発信を行っている。一方自分たちの住んでいる町では、ほとんど情報発信が行われていない。そこで、「自分たちの地域のCMを作って、観光客や修学旅行生を呼び込もう」ということになった。

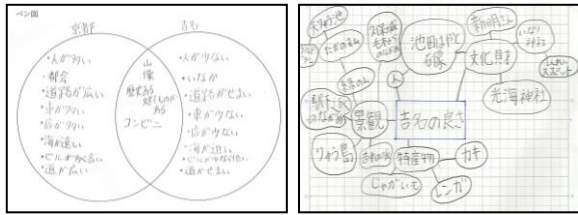


写真2 地域の良さを見つめ直すための思考ツール

3.3 CMづくりに向けて地域を取材しよう！

地域をPRするCMの作成に向けて、地域を歩いて景観を動画に収めたり、地域の神社を訪問してインタビューをしたり、地域の自然を守る保存会の方に学校に来いただき話を伺ったりした。地域の神社に取材を行った際も、保存会の方に学校へ来ていただいた際も、地域の方がICT（電子黒板やプロジェクター、タブレット端末）を活用して説明をしてくださった。学校でも地域でも、そして家庭でもICTはもはや欠かせないアイテムの一つであると感じた。



写真3 タブレット型端末で地域を取材



写真4 ICTを使って説明してくださる地域の方々

3.4 動画編集をしよう！

いよいよ本単元のゴールでもあるCMづくりである。まずは下のような企画書を作成し、それをもとに、タブレット端末に内蔵されている動画編集ソフト（ジャストスマイル）を使って、30秒間のCMづくりを行った。動画編集は児童にとって初めての経験であったが、自分たちで集めた映像や字幕、音楽をうまく組み合わせたり、ナレーションを吹き込んだりしながら、どの子も地域の良さを伝えるCMを工夫して作成することができた。

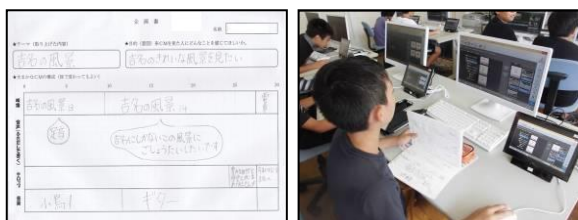


写真5 企画書を基に動画編集を行う

また、作成の途中段階で一度試写会を行い、お互いにアドバイスし合う場を設けた。映像の組み合わせ方やナレーション、字幕、音楽など、いろいろな観点からお互いに良い点や改善点を指摘し合うことができた。

映像				
音声	丘を登るとその町は見えてくる。	長い間、人々が守り続けてきた歴史がそこにある。	豊かな自然と歴史に囲まれてみませんか？	今すぐ行こう。吉名へ

図 完成したふるさとCMの作品例

なお、完成した作品は、互いに視聴し合うだけでなく、異学年や保護者、地域の方など、様々な人に披露した。今後は学校のHPで発信するなど、様々な方法で地域の良さをPRしていきたいと考えている。

4. 成果

今回の実践では、様々な項目で事前事後の変容をアンケート調査した。特に変容が顕著であったものを挙げると、「自分たちの地域の良さを知っている」「自分たちの地域をよりよくするためにできることを進んで実行しようと思う」という項目が、事前は肯定的な回答がいずれも50%未満であったのに対し、事後はいずれも80%以上に上がった。また、「今回の学習は楽しかったか」という問いに対しては、100%の児童が肯定的な回答をしていた。地域の人やものにかかわり、友だちと協働しながら一つのを創り出す喜びを、どの子も味わうことができたようである。

5. おわりに

今回の実践の最も大きな特徴は、児童が自らの目的に向かって、主体的に動画を撮影したり編集を行ったりしたことである。小学生に動画編集というと「まだ早いのでは…」という声も多いが、今回の実践からも十分可能であることが明らかになったといえる。動画編集は時間がかかり、教師の負担も大きいと思われるが、児童が自ら集めた情報を自ら編集するので教師の負担も軽く、30秒程度のものであれば、比較的短い時間でどの子も制作することができる。

また、映像を制作するためには、今回の実践のように、自ら取材をしたり情報を整理したり構成を考えたりと、多くの活動を伴う。児童のコミュニケーション能力、情報活用能力、表現力等を鍛えるのに、絶好の学習であると考えられる。小学校で動画編集まで体験させた活動はまだ全国的にも少ないと思うが、ICTがさらに普及し、一人一台タブレット端末をもって学習できる環境になれば、今後ますますこうした活動が全国的に広がっていくことが期待できる。今後も映像制作を中心に据えた新しい単元開発に、積極的に取り組んでいきたい。